

大学一覧

<<アイルランド>>

リメリック大学

<<アメリカ>>

ウェスタンワシントン大学

オハイオ州立大学ヤングスタウン校

オレゴン大学

カリフォルニア州立大学サンマルコス校

カリフォルニア州立大学スタニスロース校

カリフォルニア大学リバーサイド校

ジョージアサザン大学

チャタム大学

ノースキャロライナ大学シャーロット校

パシフィック大学

<<イギリス>>

ウスター大学

カンタベリークライストチャーチ大学

ハイランドアイランド大学

<<オーストラリア>>

ウェスタンシドニー大学

グリフィス大学

サンシャインコースト大学

セントラルクイーンズランド大学

タスマニア大学

チャールズダーウィン大学

ディーキン大学附属集中英語コース

ニューカッスル大学

ボンド大学

<<オランダ>>

HU ユトレヒト応用科学大学

<<カナダ>>

キャピラノ大学

トロント大学

バンクーバーアイランド大学

ブロック大学

レイクヘッド大学

<<ドイツ>>

ニュルティンゲン-ゲイスリンゲン大学

<<フィリピン>>

ミリアム大学

<<フランス>>

リヨンカトリック大学

<<韓国>>

国民大学校

<<中国>>

上海外国語大学

大連大学

北京外国語大学

留学種別	TESS II
留学先大学	リメリック大学
留学先国・地域名	アイルランド
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

General English Year Round Programme

クラス構成：2～15人(時期による)

時間割：9:00～10:45・11:15～12:50/週

基本的な英語の授業で、テキストや先生が用意したプリントなどを使用しながら進んでいきました。生徒の入れ替わりが激しく、多いときは15人ほど少ないときは2人程でした。英語学習の読む、聞く、話す、書くは先生によって重点を置く点が違いましたが、アジア圏からの生徒が多いときには発音に重点を置いていました。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

General English Year Round Programme

クラス構成：2～15人(時期による)

時間割：9:00～10:45・11:15～12:50/週

基本的に前期と同様にクラスが進んでいきました。この時期にクラス変更があり一つ上級のクラスに進みましたが、そこでは生徒間での話し合いが多いように感じました。先生はそこでの文法のミスだけではなく話し合いに関する意見なども述べ、より実践に近い英会話でした。

III. 留学で得た学習成果

一番自身で成長を感じるのは、やはり自分意見を臆することなく発言できる点だと思います。日本でも積極的に発言していたと思っていましたが、海外の生徒と比べるとまだまだでまた他者の意見に対する鋭い反論や意見などは自身考えだけでなく他者の考えに対する理解も深まりました。

身に付けたという点だけは、感性の違いや文化の違いがあると些細な会話や日常での行動を通じて感じました。その中で、日本人という視点で見れたのは新鮮で偏にいいものと悪いものとして区別できるのではありませんでしたが、自分にとって大きな財産だと感じます。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ウェスタンワシントン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Fundamentals of speech (Communication 101)

週に一度、約 200 人で受ける講義形式

週に 3 回、8, 9 人でスピーチの基礎を実践しながら学ぶ。数回約 50 人でスピーチについての日程や説明などを聞く。

自分以外、留学生はいなかった。

Introduction to English Linguistics (TESOL 401)

週に一度、2 時間 20 分の授業。15, 6 人ほどで、ほとんど現地の生徒で、第二言語としての英語話者。自分ともう一人が、日本からの留学生。

授業では、宿題でやってきたものに基づき、話し合い。

Second Language Acquisition Theory (TESOL 410)

週に一度、3 時間 50 分の授業。休憩あり。自分以外は英語話者 14 名。その中で、一人は第二言語として。

授業は前半 70 分は IEP の生徒を観察。後半は、生徒によるディスカッションやビデオを観たり。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

Communication の授業では、スピーチで大切な基礎を学び、英語が流暢でなくても、自信をもって話せば伝わりやすいということを知りました。

TESOL の授業では、英語習得や英語学について客観的に考えることができました。また英吾習得の理解も深まりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ウェスタンワシントン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

LING 201

オンライン

100 人以上の大教室

現地の学生が多い

週 3 回

講義形式

TESL 401

オンライン

* 交換留学生は違うコードを使うと Additional fee がかからなかったため、教授からのメールに従いました。

10 人程度

留学生は私ともう一人の NUFS 生のみ

週 1 回

ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

LING 204 sociolinguistics

オンライン

50 人以上

週 2 回

講義形式

TESL 420 Mthds/Mtrls for Basic communication

オンライン

前期と同様教授に特別なコードを作っていたたきました。

20 人程度

週 2 回

ゼミ形式 月曜日は作った授業案をもとに授業の練習、水曜日は英語のコースを受けている外国からの生徒に英語の授業をしました。

CHIN 101 First-Year Chinese

オンライン

30 人程度

週 5 回

基本的に講義ですが NUF

III. 留学で得た学習成果

パソコンを使うことが多かったため、英語だけでなくパソコンの使い方、メールの仕方を学べました。特に大学メールで教授とやり取りすることが多く、最初は戸惑いました。

授業では、いろいろな生徒の英語が聞けるため留学当初に比べるとかなりリスニング力は上がったと思います。

IV. その他気づいたこと

授業 1 回目が始まる前に教授に「私は留学生です。」と挨拶に行くと、覚えていただけることが多くその後も困ったことがないか気にかけてくださいました。

どの教授も留学生に優しかったです。

WWU の International student & scholar services は履修登録や授業で困ったことがあればいつでも助けてくれるので、積極的に利用すると思います。

留学種別	TESS II
留学先大学	オハイオ州立大学ヤングスタウン校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・コース名称

English Language Institution (語学コース)

- ・授業科目

<3-5 月>

Level 4 Grammar / Level 4 Reading / Level 4 Writing / Level 4 Listening / Level 4 Speaking

<5-7 月>

Level 5 Reading / Level 5 Writing / Level 5 Listening / Level 5 Speaking

- ・履修登録方法

入学前に Duolingo English のテストを受け、その結果をもとにレベル分けされる。履修は自ら登録するのではなく、後日メールで授業のスケジュールを受け取った。

- ・クラス構成

教師 1 人対生徒 9 人

<3-5 月> 日本人 4 人、中国人 2 人、サウジアラビア人 2 人、ベトナム人 1 人

<5-7 月> 日本人 4 人、中国人 2 人、サウジアラビア人 1 人、ベトナム人 1 人、韓国人 1 人

- ・1 週間の時間割 (月一木曜日)

<3-5 月> Level 4 (60 分授業)

Grammar 8:30am-9:30am, Reading 9:40am-10:40am, Writing 10:50am-11:50am, Listening 12:50pm-1:50pm, Speaking 2:00pm-3:00pm

<5-7 月> Level 5 (75 分授業)

Reading 9:40am-10:55am, Writing 11:05am-12:20pm, Listening 12:50pm-2:05pm, Speaking 2:15pm-3:30pm

- ・授業形式

講義形式がほとんどであるが、Speaking と Listening の授業ではディスカッションも多く行った。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

- ・コース変更手続き

テストや語学試験のスコアは必要でなかったが、ELI の授業を合格することは絶対条件である。

- ・コース名称

学部授業

- ・授業科目名

Foreign Film, Hospitality Marketing & Sales, Critical Thinking, Elementary Chinese

- ・履修登録方法

自分の取りたい学部授業を事前に調べておき、リストを作成する。そのリストをベースとしてどの授業を取るかを決める面談をアドバイザーと行う。授業によって受講可能人数が限られていることが多

III. 留学で得た学習成果

前期の 3-7 月で培った基礎英語力が後期の学部授業内容を理解する際の大きな支えとなり、課題や予習・復習にも十分な時間を割くことが可能であった。

Hospitality Marketing and Sales の授業ではビジネス学を基盤としてホスピタリティサービス業界におけるノウハウを学んだ。

また、**Foreign Film** の授業は文化的や歴史的に得られる知識が多く、毎授業が非常に興味深かった。この授業では、毎回他国の映画を見て（課題としてみる映画と授業内でみる映画がある）、それについての意見を述べたり考察を行ったりした。歴史的な内容の映画を見るにあたって、予備知識があるか否かではその映画に対する理解の深さが全く異なることに気づいた。また、同じ分野の他国映画を見比べて得られる相違点や考察は、それらの映画のテーマを正確に理解することにつながるということに気がついた。

Critical Thinking では、文の構造の仕組みをもとに批判的思考を身に着けた。また、この授業では批判的思考についての知識を得られるだけでなく、多くの専門的な難しい語彙を身に着ける機会もあり、語彙力がさらに向上した。

Elementary Chinese のクラスでは、中国人講師によって英語で中国語を学んだ。日本人にとって馴染み深い文字を使う中国語であるが、私は英語で中国語を学ぶことに価値を感じていた。

このように、秋学期は自分の興味関心をもとに授業を受けている。上記に述べた以外にも知識や経験として自身の中に吸収したことが多くあるが、それら全てが貴重な体験であった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	オハイオ州立大学ヤングスタウン校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

・ ELI

- ・ grammar4, reading4 5, writing4 5, listening4 5, speaking4 5
- ・ テストの結果によって各レベルに割り振られるので、履修登録はない。
- ・ 日本人 4 人、中国人 2 人、ベトナム人 1 人、サウジアラビア人 2 人
- ・ 1 v 4 月～木 8 : 3 0 ~ 1 5 : 0 0 lv5 月～木 9 : 4 0 ~ 1 5 : 3 0
- ・ 講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

リスニングスキルの劇的な改善、内向的な性格だったが周りの環境の影響で少し積極性が身につく。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	オレゴン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

語学コース

履修登録なし 初日に受けるテストによってレベル分け

- grammar

日本人：サウジアラビア人＝6：7

- listening&speaking

日本人：サウジアラビア人：中国人＝4：1 1：2

- reading&writing

日本人：サウジアラビア人＝4：9

- student success

日本人：サウジアラビア人：ベトナム人＝4：3：1

一週間のスケジュール

月 9：00～SS (50min) 10：00～G (80min) 12:00～L&S (80min) 14:00～R&W (80min)
 火 10：00～G (80min) 12:00～L&S (80min)
 14:00～R&W (80min)
 水 9：00～SS (50min) 10：00～G (80min) 12:00～L&S (80min) 14:00～R&W (80min)
 木 10：00～G (80min) 12:00～L&S (80min)
 14:00～R&W (80min)

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

NUFS での必要条件 TOEFL500 以上あったため、クラスをパスすれば学部変更可能。

登録方法：ネット上の自分のサイトから

International Studies 240 lecture+discussion

クラス構成：100 人規模 9 割以上現地生 数人留学生

lecture T,R 12:00～1:20

discussion F 10:00～10:50

Women&Gender Studies 101 lecture+discussion

クラス構成：100 人規模 9 割以上現地生 数人留

III. 留学で得た学習成果

AEI の授業では生徒がみんな留学生なので緊張することなく英語を話すことができた。

学部授業になってからはスピーキングに自信がなかったが、AEI で英語にほぼ毎日触れたこと、学部授業を受ける日本人の友人ができたことで授業が始まってわからないときに共有したり、一緒に課題に取り組むことができ、精神的に安定していたと思う。中国語の授業では授業後にカフェに出かけたり、一緒にテスト勉強をして英語を話す機会が多かった。

IV. その他気づいたこと

学部授業になってからは、AEI の時と比べて英語を話す機会が少なくなったと感じた。

留学種別	TESS II
留学先大学	オレゴン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・コース名称：語学コース
- ・授業科目名：Speaking & Listening, Writing, Grammar
- ・履修登録方法：プレイスメントテスト後、自動で登録される
- ・クラス構成（人数、国籍）：各クラス 15 人前後、日本人 5 割、サウジアラビア 3 割、中国 1 割、その他 1 割
- ・一週間の授業時間割：10:00~16:00 2 時間の空き有り（人によって様々）
- ・授業形式（講義形式、ゼミ形式など）：グループワーク

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

- ・語学から学部への切替：事前に TOEFL 500 点を提出するか、レベル 6 のクラスをパスするのどちらかを満たしていれば OK
- ・コース名称：学部授業
- ・授業科目名：Women's & Gender Studies101, International Studies240, Business Administration101,（110 分授業を除き、各授業ディスカッションクラスとセット）
- ・履修登録方法：ポータルサイトから先着
- ・クラス構成 人数：クラスによるが、100 人前後 国籍：ほぼ現地学生、1 割留学生

III. 留学で得た学習成果

語学コースでは、日本人が思ったよりも多く、授業以外で英語を使う機会が少ないという事態になり、自分から外国人の友達を作ったり、授業では積極的に発言したりと、自分で学習環境を作り出す必要がありました。そのため、積極性や学べる機会を自分で探して工夫して学習する力が付いたと思います。

学部授業では、語学コースの比ではないくらい難しく感じ、初めのうちはこれからやっていけるかどうか不安もありました。しかし、語学コースで仲良くなった学生たちと一緒に勉強したり、情報共有をしていくうちに楽しんで授業を受けることができ、この時に人との繋がり大切さをととても感じました。課題の量も難易度も回を追うごとに増し、それでも一つ一つ分からないことを自分で聞きに行き、その過程で英語力もコミュニケーション能力が高まったと感じました。大量の課題のおかげで、毎日 3 時間は勉強していたので、勉強の習慣も身に付きました。そして、自分から質問や提案をすると、案外受け入れてくれたり、かえってプラスになることが多かったと感じ、自分で発信していくことに躊躇う必要はないと思いました。

また、私はあえて外大での専攻以外の科目を取りましたが、そこから新しい興味に繋がり、考え方の視野も広がったように感じます。

IV. その他気づいたこと

留学種別	UCR 特別
留学先大学	カリフォルニア大学リバーサイド校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・コース名称
 - ・授業科目名
 - English
 - Media Through Communication
 - Business in English
 - ・履修登録方法
 - 自動的
 - ・クラス構成（人数、国籍）
 - 各クラス 15 名程度、日本人、台湾人、中国人、サウジアラビア人、韓国人、ドイツ人、など
 - ・一週間の授業時間割
 - 一日 9 時から 15 時まで、各 90 分授業（英語のみ午前中通し）
 - ・授業形式（講義形式、ゼミ形式など）
- 少人数の講義式であるが、発言制である

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

2 期からはディズニーでの研修が主にあり、まだ授業は始まっていない状態。

III. 留学で得た学習成果

午前での英語の学習については、留学する上で必須であると感じた。使っているテキストが主に TED TALK を用いたものであり、この授業が終わってしまっても TEDTALK を個人的に使って英語の学習をしていきたいと思う。

また、成績に関しては前半は A+や A を取ることができていたが、徐々に難易度も上がり、それに伴って成績も少しだけ衰えたようにも感じた。しかし、それがモチベーションになり努力し続けることができると思う。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	カリフォルニア州立大学サンマルコス校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ ALCI コース
- ・ conversation
 - grammar
 - listening
 - public speaking
 - writing
 - enrichment
 - reading
 - vocabulary
- ・ 助手の方ともに
- ・ 十数名、ほとんどが日本人
- ・ 月水（三科目）、火木(三科目)、金（二科目）
- ・ 講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

- ・ 1 期の成績により判断される
- ・ ALCI コース、学部コース
- ・ conversation
 - grammar
 - listening
 - public speaking
 - writing
 - GEOG 201
 - MLAN 220
- ・ 助手の方ともに
- ・ 十数名、ほとんどが日本人
- ・ 月水（三科目）、火木(三科目)、金（二科目）
- ・ 講義形式

III. 留学で得た学習成果

人種やジェンダーに対する考え方が広がりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	カリフォルニア州立大学サンマルコス校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース: ALCI English pathway program

授業科目: Writing Adv, Grammar Adv, Enrichment CSB all, Speaking, Listening high intermediate, conversation, Reading low advanced, Vocabulary low advanced

履修登録方法: ALCI で自動的に登録。

クラス構成: 5~10 人程度の少人数クラス。日本からの留学生が半分以上。

時間割: Mon. Wed. 8:30~9:40 Writing

10:00~10:50 Grammar

11:00~12:15 Enrichment

1:00~2:15 Speaking

Tue. Thu. 9:00~10:15 Listening

10:30~11:45 Conversation

1:00~2:15 Reading

2:30~3:45 Vocabulary

Fri. 8:30~9:40 Writing

10:00~10:50 Grammar

授業形式: すべてレクチャー(講義)

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

学部へ変更の手続き: テスト等は受けず、1 期の成績で学部に行けるか決まる。

コース: Study@CSUSM program

授業科目: GBST、AIS、MLAN、AT

履修登録: 自分でポータルで取りたい授業を 12 単位分探し、オンラインで履修登録。

クラス構成: MLAN は 15 人程度の留学生のみのクラス。それ以外は 40 人程度のクラスで、留学生は数人。

時間割: Mon. Wed. 13:30~14:20 GBST

14:30~15:

III. 留学で得た学習成果

語学コースでは、スピーチやプレゼンの機会が多く、人前で英語を話すことへの不安や恐怖心がなくなり、自信を持って話せるようになりました。

学部授業では、グループディスカッションや様々なグループワークを通して、たくさんの現地の学生と関わることができました。また、自分の意見を英語で言うことの難しさを学びました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	カリフォルニア州立大学スタニスローズ校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ALCP

指定のもの

8 人

週 1 2 回

少人数講義

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

学部授業

少ないのは 8 人、多いものは何十人単位・多様性

4 クラスを履修、週 1 0 回程

クラスによる

講義のものが多

比較的きれいで整っている

III. 留学で得た学習成果

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ジョージアサザン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

English Language Program という語学コースを受けました。最初は学部コースからのスタートの予定でしたが、実際に学部コースを受けてみるとこのままでは単位が取れなくなってしまうと思った点、夏季のため同じ科目を毎日受けなくてはならなくなってしまう点から語学コースへの変更をしました。現地の方に相談すると変更することは可能であると言われ、インターナショナルオフィスの方を通して手続きなどをしていただきました。

私が受けたこの語学コースには、夏季であったため学生が非常に少なく、5 人の学生しかおらず先生もこの期間中 1 人の方がずっと担当してくださいました。

5 人中 4 人が名古屋外国語大学の学生で日本人 4 人ブルキナファソからの学生が 1 人という状態でした。

クラスは月曜から木曜までの週に 4 回で、9:00 から 12:00 までの 180 分がライティングやリーディングに特化した授業、13:00 から 14:30 までの 90 分間はリスニングやスピーキングに特化した授業といった形式のクラスでした。テキストや内容は先生が用意してくださり、教科書を買う必要はありませんでした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

現地の学生と同じ学部授業を受けました。科目名は English Composition, Intro to Sociology, Elementary Chinese, International Studies

履修用の資料にて第一希望、第二希望を記載して担当の方に提出する形で履修登録をしました。クラス構成は科目ごとに全く異なり、English Composition のクラスでは主に留学生が 20 人ほどで 75 分の授業が週に 2 回のペースでありました。先生がレクチャーをしながら学生がそれに対して実際にペアに

III. 留学で得た学習成果

1 期での語学コースでは人数が大変少なくなってしまう点や毎日同じ時間で同じ科目をやるという点から終盤の方では手応えが感じられなくなってしまうこともありましたが、先生の方は本当に親切でコンバセーションパートナーや週末だけ過ごしていただけるホストファミリーを紹介していただいたりとたくさんの出会いがありました。この語学コースの履修があったからこそ学部コースでの英語にも対応できたと思います。学部コースはどれも授業形態が全く異なり、戸惑うこともありましたが現地の学生と授業を受けることで刺激され、リスニングの能力も自然とつけることができました。特に International Studies という科目では政治や歴史などの情報を理解しながら現代の厳しい世界問題について考え、大変為になりました。学生はすぐに手を挙げ背一曲的に授業に参加している様子が伺えました。テストは自由にコンセプトを説明するものがあり、正解はない為どれだけの的をえた回答をすることができるかと注意しながら勉学に励むことができました。Sociology の授業も日本にはなかった授業であった為大変興味深く、自分の新しい分野がひろがりました。全体を通して自分が一番成長した点として、わからなかったことを分からないままにしないように、先生に直接質問をしに行ったりメールを送ったりと積極的に行動する力がついたと感じます。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	チャタム大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・コース名称→English Language Program
- ・授業科目名→US Culture: Pittsburgh/Research Papers/ Academic Reading/Academic Lectures
- ・履修登録方法→オリエンテーション時に先生の指示に従って登録。
- ・クラス構成→9 人、日本人・ベトナム人
- ・一週間の授業時間割→月・水：Culture (9:45~12:00)/Paper (12:45~15:00)
火・木：Reading(9:45~12:00)/Lecture(12:45~15:00)
金：Field Trip (9:45~15:00)
- ・授業形式：少人数クラス、ゼミ形式に近い

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

日本にいるときには使わなかった英単語をよく使うようになったし、英文レポートの正式な書き方を学ぶことができた。また、文化の授業では、プレゼンテーションが約週 1 回のペースであったため、プレゼンテーション能力もついたし、レクチャーの授業では、TED TALK やイエール大学の講義などを聞いて要約の練習をしたので、リスニング力も向上したと思う。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ノースキャロライナ大学シャーロット校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

1 学期目は ELTI という語学コースにて英語を学びました。科目は Reading/Writing, Academic Language、Listening/Speaking の 3 科目を履修していました。時間割としては月曜日から金曜日の午前中（9 時から 12 時 15 分）は Reading/Writing または Academic Language（日替わり）があり、午後（1 時 15 分から 3 時 15 分、金曜日は無し）は Listening/Speaking がありました。クラスは 6 段階で、一クラス当たり大体 10～15 人程で私のクラスは、韓国、サウジアラビアと日本の学生がいました。授業形式は、講義形式の授業が基本でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

2 学期目は学部授業を取りました。1 学期目は語学コースでしたが、特にテスト受験、スコア等は必要ではありませんでした。科目は、Chinese（月 12:20-1:10 火木 10:00-11:15）、Interpersonal Communication(月水金 1:25-2:15)、Sociology(月水 2:30-3:45)、Lesbian&Gay(月 5:30-8:15)、Japanese の Learning Assistant(月水金 10:10-11:00)を履修していました。Japanese は 1 クラスあたり

III. 留学で得た学習成果

1 学期の語学コースでは、アメリカ以外の文化にもクラスメイトを通じて触れることができました。しかし、レベルが下だったこともあり、基本的なこと、知っていることばかりの学習がほとんどでしたのであまり英語力が上達できたとは感じませんでした。対して 2 学期の学部授業では、自分の学びたかったことが学べて有意義な学習ができました。現地学生と共に授業に参加することは想像以上に難しく、予習と復習をする習慣が身につきました。そして、分からないことは自分から聞きに行くという行動力も身につきました。特に Interpersonal Communication ではコミュニケーションの取り方を学ぶだけでなく、アメリカと日本のコミュニケーションや文化背景の違いも同時に学べ、とても楽しかったです。そしてアメリカでは生徒も自分の経験や意見を発言することが多く、それによりとても授業が分かりやすくなると同時にとても興味を持ってました。

IV. その他気づいたこと

日本の授業は生徒の発言が少なく、先生がただ話す一方的な授業が多く、何を学んでいるかよくわからない内容の薄い、明確でない授業が多かったなとアメリカの授業を通して思いました。生徒の授業態度も、日本に比べて寝ている人まわりと話しているなどがほとんどいなくて授業に参加する態度がすごいなと感心すると同時に刺激になりました。

留学種別	TESS II
留学先大学	ノースキャロライナ大学シャーロット校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

リーディング、ライティング、アカデミックランゲージ
履修登録は必要なし
人数は 7 人
クエット、日本、ベネズエラ人など。
発言型の授業

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

コミュニケーション、ホラームービー、日本語アシスタント（ボランティア）、中国語、心理学
履修登録はオンラインで自分で
人数は様々で 260－15 人
月水金 日本語、中国語、コミュニケーション
火木 心理学、ホラームービー
講義形式

III. 留学で得た学習成果

リスニング、ライティング、スピーキングの力は E L T I でついたと思う。リーディングはあまりついてない気がする。講義中に発言すること、授業に参加することの大切さに気付いた。学部授業では先生の話聞くのも、授業についていくのも大変だったが、アメリカ人の友達を作り、ノートを見せてもらうなど工夫した。何事にも積極的に関わって、自分から行動するよう心掛けた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅡ
留学先大学	パシフィック大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ 交換留学
- ・ Politics、American Perspective、Advanced Grammar
- ・ 担当と相談
- ・ 約 40 人（アメリカ人&インターナショナル）、8 人（インターナショナル）、6 人（インターナショナル）
- ・ 月水金 9:00-10:05、月水金 13:00-14:30、火木 9:40-12:30
- ・ 講義&グループワーク

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

- ・ 交換留学
- ・ Accounting Principles、Film history & analysis、Academic and Research Writing
- ・ 担当と相談
- ・ 約 30 人（アメリカ人）、約 40 人（アメリカ人&インターナショナル）、6 人（インターナショナル）
- ・ 月水金 11:45-12:50、火木 13:00-14:30、火木 9:30-12:20
- ・ 講義&グループワーク

III. 留学で得た学習成果

英語が伸びたと同時に、専門知識の習得。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ウスター大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ Pre-sessional English Course
 - ・ Academic vocabulary extension
- Academic reading skills and strategy
Listening strategies for lectures and note-taking skills
Grammar practice
Guidance regarding the avoidance of plagiarism
Skills in citing and referencing sources
Presentations
Seminar-style discussions
Time management strategies
Recognition and development of preferred learning styles
Life in Britain today
- ・ 履修登録方法はない
 - ・ 16 人程度、中国人が多数
 - ・ 月曜日は 9 時ー 17 時、火曜日から木曜日は 9 時ー 15 時、金曜日は 9 時ー 13 時
 - ・ 講義、たまにディスカッション

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

- ・ Exchange/Study abroad
 - ・ SOCG1105_S1.19-20: DEMOCRACY IN EVERYDAY LIFE
- COMP2381_AS.19-20: E-BUSINESS
LANG1003_S1.19-20: IMPROVING ENGLISH USAGE AND STYLE IN ACADEMIC WRITING (FOR NON-NATIVE SPEAKERS OF ENGLISH)
ELAN2008_S1.19-20: THE ENGLISH LANGUAGE IN

III. 留学で得た学習成果

英語力が上がる。
他の国の人と勉強することによって視野が広がる。
イギリス人は日本人と比べると従業に積極的に参加するため、モチベーションが上がる。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ウスター大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

学部で現地の学生と一緒に授業を受けた。

科目は **Name Studies** (名前学), **Multilingualism Matters** (多言語問題), **Introduction to Language Acquisition** (言語獲得入門), **Italian(I)** (イタリア語) の 4 つを履修した。

履修登録は、願書に希望科目を記入する他に、ウスター大学のポータルサイトから自分で追加・変更することができる。

交換留学生は 1 学期に 4 つまで、文理系を問わず学部を超えて幅広い科目を履修することができる。

1 つの科目は講義中心の **Tutorial** とプレゼンやゼミ形式の **Seminar** (各 90 分) があり、授業が週 2 回ずつ、合計 8 コマあった。クラス構成はイギリス人を中心とした 15 人前後で、留学生はイタリア、ドイツ、チェコなどヨーロッパ出身の学生がほとんどだった。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

半年留学のため、なし

III. 留学で得た学習成果

外大では学べない社会言語学を学ぶことができ、学業面での成長を感じた。また、外大ではあまりやらないプレゼンテーションやグループディスカッションをする機会が多かったので、英語能力だけでなく討論や批判的思考能力、グループをまとめるリーダーシップや計画性を身に着けたと感じる。

IV. その他気づいたこと

特になし

留学種別	認定
留学先大学	カンタベリークライストチャーチ大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

General English course
 15 students in each class
 Almost all students are from Japan
 Class starts 9:00am and ends 3:00pm from Monday to Thursday. On Friday, class ends on 12:30
 We have a lot of speaking in class

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

Same as above

III. 留学で得た学習成果

I improved my English especially in speaking and listening skill.
 I also got a communication skill and a skill for living by myself, without parents.

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	カンタベリークライストチャーチ大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・コース名称 **General English**
- ・授業科目名 **Upper-Intermediate Topic Vocabulary Culture Project Current Affairs Language games Public speaking writing Speaking Reading Listening**
- ・履修登録はしなくても自動的に入ってました。毎週時間割が変わっていました。
- ・クラスは **16～17** 人でした。途中でタイや台湾の学生が **2** 人ほど入ってきましたが、それ以外はすべて日本人でした。
- ・一週間の授業時間割は月曜日に毎週配られていました。
- ・授業形式は **core English** の感じで、双方向授業でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

- ・コース名称 **General English**
- ・授業科目名 **1 期と変更はありませんでしたが、最後の 2 週間だけ international Foundation year** というクラスに入れてもらえました。
- ・履修登録方法 **1 期と変わりありませんでした**
- ・クラス構成 **international foundation year** はヨーロッパからの非ネイティブの学生がほとんどでした。人数は **16～20** 人でいた。
- ・一週間の授業時間割は **1 期と変わらずでした**。
- ・授業形式も **1 期と変わらずでした**。

III. 留学で得た学習成果

私はこの留学で、自分自身が思っていた以上に英語が日本の中では喋れる/理解できる方なのだと思います。クラスメートのほとんどは私より英語力が低いと感じました。しかし **international foundation year** に入ると自分の英語力や考え方(シャイなところなど)が現れてきて、英語の学習をもっとしていかないと感じるようになりました。成長した点は、恥ずかしがらずに喋れるようになった点です。英語が間違っているかもなどと考える前に英語は道具だからという考えでクラスでも発言できるようになりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ハイランドアイランド大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

半年間の留学をしました。在籍したコースは **Social Science**（社会科学）で、社会学、心理学、政治学、犯罪学の 4 科目を履修しました。履修内容は大学からの指定でしたので履修期間はなく、既に組まれた 時間割を受け取りました。選択科目はありませんでした。

クラスは、心理学と政治学が 20 人弱、社会学は 60 人の規模でした。これらの 3 科目は、週に 1 回の講義形式で勉強しますが、犯罪学はオンライン上で自学自習をする科目で講義はありませんでした。1 週間の スケジュールは、月曜日と木曜日が全休で、火曜日に政治学が 3 時間、水曜日に社会学が 3 時間、金曜日に心理学が 3 時間という日程でした。犯罪学については、1 週間の間に 3 時間分の自習をすることを目安として、金曜日に **drop-in** クラスという質問やディスカッションをする時間が設けられていました。これは 1 時間程ありますが、出席自由なので日によって 5 人しかいないこともあれば 20 人いる日もありました。私の場合は、理解を深め、テストに向けて確実に勉強をするために毎週出席していました。これによって、担当教員がテストで出題する問題がどのようなものなのか、何を重点的に学ぶべきなのかということが分かりました。全体の授業を通して、パワーポイントを使用した講義が行われ、必要に応じて映像資料や参考資料の紹介がありました。学生は教授達の説明を聞きながら、ノートを取ったり、ノートパソコンに打ち込んだり、質問をしたりとそれぞれが学びやすい方法で受講していました。犯罪学に関しては、自学自習が基本なので人によって勉強の進み具合に遅れが出る場合もありましたが、テストに向けて計画的に学んでいくことが求められました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

私は、社会科学に強い関心があったものの大学できちんと学ぶのは今回が初めてでした。そのため、社会学・政治学・心理学・犯罪学のそれぞれに関する基礎知識から学ぶ必要があり最初はとても苦労しました。専門用語もたくさん出てくる上に、日本語でも聞いたことがないような経済や政治の用語が出てくる場合には、授業外に関連図書を読んだりネット上で解説を見たり、と自学自習に取り組みました。こうした積み重ねのおかげで、最初の 2, 3 週間は右も左も分らず苦労していた勉強に対する意欲が湧き、理解度も上がりました。学習成果としては、英語で評論を書いたり、議論するレポートを書いたりする力が格段に伸びたように感じています。さらに、専門書を多く読んだので読解力が上がり、より高度な内容でも理解できるようになりました。また、4 科目が独立した内容ではなくて相互に関連しているという点で、点と点が繋がっていくような授業内容になっていたことで勉強しやすかったです。例えば、犯罪学では犯罪者がどのように罰せられ、どのような過程を経て判決が下るのかということを学び、心理学では犯罪における攻撃性に心理的要素がどう関係しているのかを学び、社会学では犯罪者の社会復帰が難しいのはなぜかという社会と人の関係性、政治学では、国が犯罪に対してどのような政策を撮っているのかということを学びました。こうした関連性のある 4 つの授業を履修することで、スコットランド社会への理解が深まり、日本とは違った社会の価値観や法律を学ぶことが出来ました。

身につけたことは、計画性と忍耐だと思います。犯罪学については、本来 1 年かけて学ぶ内

容なので現地にいなかった半年分の内容を自分で学ぶ必要がありました。留学が始まって、授業についていながらレポート課題をこなしつつ、半年分の内容に追いつくために倍の勉強をしました。さらに、その中で提出するレポートが 2 つあったので空き時間や全休を利用して完成させました。4 科目の勉強と、在籍していなかった半年分の勉強を同時進行で進めるのは精神的も体力的にも決して簡単ではありませんでしたが、勉強と休みの切り替えを上手くできるようになる良いきっかけになったと思います。

IV. その他気づいたこと

留学中は、ホームシックになったり、体調を崩しやすくなったりと心身共に辛い時期がありました。そうした時に、大学の先生に相談したり街に出かけてリフレッシュしたりと自分で気持ちを切り替える方法をいくつか持っているといいと思います。私が留学したスコットランドは暖かい時期もありましたが、基本的には非常に寒く、雨や雪で天候が悪い日も多かったため、気持ちが沈み、寒くて外に出たくないな、という日もありました。そうした時も勉強のモチベーションを保つことが出来たのは、部屋でヨガをしたり、暖かいコーヒーを飲んで一息ついたり、好きな音楽を聴いたり、と気持ちを切り替える方法を持っていたからだと思います。勉強方法には直接関連していませんが、長期留学を元気に過ごし、勉強の成果も上げていくという点ではこうした些細な取り組みが大切なのではないかと思います。私自身も、こうした取り組みのおかげか一度も風邪を引くことなく元気に過ごすことが出来ました。

留学種別	TESS II
留学先大学	ウェスタンシドニー大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- EAP
- Reading, Writing, Listening
- 履修登録の必要なし
- アジア圏の人がほぼ、EAP4 の時ではそこまでの偏りはなかったが、EAP 5 ではインド人がクラスの半分程を占めていた、人数は 12,3 人
- 9-11 授業、12-13 昼食、13-15 授業
- 大学の授業にととても似ている、ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

Humanity and Communication Arts
 Introduction to International Relations, Modern European History and Politics
 Australia and the world, Behavioral Science
 Online
 国籍の偏りは特になし、講義であれば 50 人以上、tutorial では 15 人ほど
 Monday: Lecture+Tutorial2hours Introduction to Inter

III. 留学で得た学習成果

ウェスタンシドニー大学には日本人学生クラブのような大学公式のグループがあり、そこで多くの現地の大学生に会うことができ、彼らと仲良くなれたことで会話を通して、英語の力はかなり向上した。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	グリフィス大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

1 学期に履修していたクラスは、Introduction to Marketing, People and Places in the Service Industries, Introduction to Environmental Sustainability。1 つのクラスは、110 分の講義と 50 分のワークショップに分かれており、履修の際は、それぞれ希望の時間帯を選択する。講義は何百人も収容できる大きな講義室などで行われ、ワークショップは 20～30 人ほどの少人数クラス。ワークショップにはクラスアクティビティやディスカッションをする。週の時間割は、火曜～金曜日。ツーリズムの授業（People and Places in the Service Industries）ではフィールドトリップもあり、課題のレポートには実際の観光地を選び分析した。マーケティングの授業では、実際に存在するブランドを分析し、売上をあげるためのマーケティングプランを作成したりした。環境科学では、自分の興味のある職業の立場で、どのように気候変動に対応し、持続可能な社会にしていくなかについてのレポートを書いたりした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

2 学期に履修していたクラスは、Work and Employability, Information Systems for Services Industries, Global Environmental Challenges。履修方法、クラス構成等は 1 期と同じ。Information Systems の授業では、自身のウェブサイトを作成することが授業内容だったので、ワークショップは PC ルームで行われた。時間割は、月曜、木曜、金曜日。

III. 留学で得た学習成果

環境科学やビジネスなど、これまで興味があった科目を英語で受けることができ新鮮だった。授業内容や課題も実際に存在するブランドや場所をターゲットとすることが多く、実用的な知識を学ぶことができた。環境科学はこれまで勉強したことがなく、科学的用語も多く難しかったが、以前から興味があった分野なので充実した学習ができた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	グリフィス大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

オンラインで履修登録を行った。月曜日から木曜日まで授業があった

Italian 1A. 1 時間 50 分のレクチャーが週に 2 コマあり、現地の学生とグループでイタリア語の勉強をすることが多かった。

Language and Communication of arts and social science. 1 時間 50 分の授業が週に 2 コマ。第一言語が英語以外のグリフィスの学部生の必須科目

Exploring Music. 1 時間 20 分のレクチャーと 50 分のチュートリアルで構成されていた。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

Italian 1B. 前期に引き続き、1 時間 50 分のレクチャーが週に 2 コマあり、会話と文法を中心に学んだ。

Music of Stage and Screen. 1 時間 50 分のレクチャーが週に 1 コマあり、映像と舞台の音楽の役割の研究をした。

Music and Society. 3 時間 50 分のモジュールが 3 回、1 時間 50 分のチュートリアルが 3 回という構成。音楽で社会問題をどう変えるかについてディスカッションをし、個人でプロジェクトを考えた。

Directing and Acting. 脚本分析、

III. 留学で得た学習成果

1 学期から学部の授業を履修し、自分の興味のある分野を学ぶことができてとても満足している。ディスカッションやグループワークでは自分の意見を率先して伝えることの難しさを知り、そこから努力して自発的に意見を言うように心がけた。

英語コースを受けていないため、個人的に耳で聞いたことをインプットしアウトプットをして英語を学んだ。よく使う語彙をメモしたり話してみたりして習得した。

日本の大学にはない授業形式で最初は課題の取り組み方も分からなかったが、徐々にコツを掴み成績も良くなっていった。

IV. その他気づいたこと

文化の違いにより上手く伝わらないことも時々あったのは確かだが、やらないよりかはやって失敗したほうが良いと思い、恐れずに何事にもチャレンジして取り組むことの大切さを学んだ。

留学種別	TESS II
留学先大学	サンシャインコースト大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

EAP2

授業は **Academic Skill** の授業と **IELTS skill** の授業に分かれていました。

履修登録は特にすることなく、クラスに入学するとクラスメイト全員が同じ授業を受講しました。

17 人クラスで、10 人が日本出身、4 人が中国出身、1 人がネパール出身そして 1 人がニューカレドニア出身でした。

基本的に月曜日から金曜日の 8:40 から 3:00 まで授業があり、生徒が問題を解いて先生が解説する授業スタイルもあれば、生徒同士がディスカッションするタイプの授業もありました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

学部授業

私は、4 つ学部授業を受講しました。

ABOUT JAPAN, PSYCHOLOGY INTRODUCTION, SOCIOLOGY と CURRENT PSYCHOLOGY の授業です。

履修登録は PC を通して自分で受講したい授業を選びました。クラス構成は授業によっても異なりますが、ほとんどが現地のアースとラリア人の方で、授業によっては、**international** の生徒も多く受講していました。

時間割は、2 時間が **Lecture** という講義を聞く授業で、1 時間は **Tutorial** というディスカッション

III. 留学で得た学習成果

留学で得た学習成果

授業の課題で出たエッセイやプレゼンテーションをこなすうちに、自然と英語力が上がっていったと思います。初めの授業を受け始めた頃から予習、復習を欠かさずに行ってきたことで授業についてくことができました。さらに授業だけでなく、**International** 用の会話クラスに積極的に参加したり、友達を作ることによって、休日にも英語を話す機会を作れたり、電話をすることで、さらに英語力を向上させることができた実感しています。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	サンシャインコースト大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

・EAP(English for Academic Purposes)・履修登録は無く EAP は同じ授業を全員が受ける。・クラスは 17 人で、ネパール人、フランス人、中国人が 5 名、日本人が 10 名ほど。・月曜から金曜まで朝の 8:40～15:00 までです。月火水曜日は教科書を基にした授業で、木金曜日は IELTS の授業。・主に IELTS を基本とした Writing、Reading、Listening。授業では IELTS の過去問を解き解説をしてもらったり、教科書を基にアンケートであったり、プレゼンをしたりする。・授業形式は人数も少ないのでゼミ形式で、基本的に違う国籍の人が隣同士で座り、問題について話し合う。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

・2 期になり語学コースから学部への切り替えは、語学コースでの期末テストで全体で 65% を取らなければいけなかった。・授業科目名、About Japan: Current Perspectives, Foundations of Outdoor Environment Studies, Introduction of Psychology B, Languages and Linguistics・USC central というサイトからオンラインで履修登録をする ・About Japanーレクチャーとチュートリ

III. 留学で得た学習成果

一期の EAP では基本的なリスニング力、ライティング力、リーディング力が鍛えられた。特にエッセイの書き方は厳しく教えられたため、様々な種類のエッセイの書き方や、リファレンスの書き方も学んだ。また、授業内で現地の方々にアンケートをとり、まとめてプレゼンをする課題があったため、積極的に話しかける力や人に上手に伝える力も身についたと感じる。後期はまず予習をしなければついていけず、復習をしなければ頭に入らないため、予習復習をしっかりとこなす習慣がついた。時間は限られていて、更に課題もあるため、時間の使い方が非常に大切だと感じた。様々な種類の興味のあるコースを英語で学んだことは視野を広げたと感じる。特に日本の授業や言語学では日本についても学んだので、今まで日本にいただけでは気づくことのなかった点に他の観点から気づくことができた。課題やプレゼンはとにかく現地の学生より何倍も時間がかかるため、その分早めに取り組むことが大切だと感じた。緊張は未だにするが、前よりも人前で表現することに対し抵抗は無くなったように感じる。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	サンシャインコースト大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ Introduction to Psychology
- ・ Italian
- ・ Business Analytics
- ・ Global Business

履修登録は出発前にコンピュータから済ませます。だいたいの授業は大きい教室での授業でした。コンピュータを使うことが多いので、常に集中していないと行けませんでした。だいたいの授業は講義と実習で別れていました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

個人的には、一人で物事をどうにかしようとする癖がありましたが、頼ることや、計画性を持って課題や物事に取り組むことが身についたと思っています。幸いにも、提出物は全て期限内に提出することができたのは大きいことだったかなと思います。まだ、学習面では、もっと伸ばせたかなとも思っていますが、ストレスとか貯まることが多かったので、それと両立できるようにいろんなアクティビティーに参加して両立できたのはよかったと思っています。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	セントラルクイーンズランド大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

EAP2 (English for Academic Purpose)

20 人程のクラスで国籍はインド、中国の学生が中心でモンゴル、コロンビア、ブラジル、メキシコ、ベトナムなど国際色豊かなクラスだったと思います。週 5 日、1 日 4 時間講義形式の授業でした。授業内で **Writing** や **Speaking** などを実践的に練習する時間が多く設けられていました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

EAP を合格することが学部コースの条件でした。合格点はテスト、課題の成績が 65%以上。CQU Global Inbound Program で 4 教科履修しました。

Introduction to Business

Organisational Behaviour

Marketing Fundamentals

Human Resource Management

履修登録はすべてネット上。

授業によってバラつきはありましたが 15 人前後国籍は現地の学生とアジア圏の学生が中心でインド、中国、台湾、マレーシアからの

III. 留学で得た学習成果

EAP ではエッセイの書き方を中心に勉強していて、学部コースでの課題にとっても役立てることができました。引用を多く用いて 1000 語以上のエッセイを書くことに慣れていなかったのが初めは完成させるまで時間がかかっていましたが、数を重ねることで慣れてきてコツをつかめるようになりました。様々な記事を多く読むことにより **Reading** のスキルも身につけることができ次第に速く読めるようになりました。授業内でのディスカッションで積極的に話すことで **Speaking** にも自信がつけました。学部コースは NUFS で学んでいることとは違う分野を勉強していたので授業の内容を理解することも課題もとても大変でしたが、自分の知らないことを学ぶことに面白さを感じられたので楽しんで勉強することができました。就職後に役立てられるような知識を得られたと思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	セントラルクイーンズランド大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

科目名：EAP 2

前回の報告書の報告書とほぼ同じになるが、中国人 5 人、日本人 4 人、ナイジェリア人 1 人、途中離脱したインド人 1 人。履修登録は特にしていない。朝 9:00－14:00 までで休憩が一時間ある。Core English とほぼ同じ。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

学部コースへ進むためには語学コースのテストに受かる必要がある。私の担当の先生は面倒見がいい人だったので本番のテストまでに何回か練習だったり、チェックをしてくれたのでクラス全員受かっていた。ただ先生の裁量によるところが大きいので、私の一つ前のタームの同じコースはぶっつけ本番でテストだったため脱落者が何人かいたらしい。

・履修登録方法

留学生は留学生オリエンテーションでみんなと一緒に登録した。COE に載せてある科目しか登録ができないのでクラスクラッシュがあると取れる科目が減ってしまうので注意が必要。ただ

III. 留学で得た学習成果

個人的には EAP で良しとされたレポートの書き方と大学の授業で求められた書き方とは少し違ったので注意しなくてはいけなかった。レポートを書くために雑誌や本を読まなくてはいけなかったが読み物としてのレベルが外大の授業教材や EAP とは比べ物にならなかったのが大変だった。確実に忍耐力が付いたと思う。それから内容は悪くないけど文章や単語の選びにまだ努力が必要と言われることが多かったので単語のニュアンス理解が留学前と比べたら上がったと思う。

IV. その他気づいたこと

オンライン化を進めているだけあり、授業は全て録画されていて何度でも見返せるのでとても助かった。ただ、それゆえに現地の学生は欠席しがちだった。それから、私の場合は授業に出席しないといけない 3 科目で手いっぱいになっていしまつてオンラインの授業がおろそかになってしまい、追いつくのが大変だった。採点は留学生が取りがちな授業の先生の方が易しかった気がするが、オンラインの場合は先生側も私のことを知らないので評価が厳しかった。それから、ALC という提出物のチェックをしてくれる部署があるものの、個人的にあまりあてにならないと感じたので英語で長文を書く練習を日本にいる間にしっかりしておけばよかった。話す力は何もしなくても環境的に話さないとどうしようもないので勝手に伸びていくが、読み書きはチェックしてくれる人もいないし、毎回友達に 2000 字も添削してもらわなければならないので、誰かに評価してもらうことができるレベルの文章を自力で書けるだけの力をつけておくべきだった。話す聞くができなくても親切な子や留学生慣れしている子と仲良くなればどうにでもなるが、読み書きができないと単位に関わってくるのでこっちの学習に時間を割くべきだと思う。

留学種別	TESS II
留学先大学	セントラルクイーンズランド大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ GE3 (General English3) 前半 10 週→EAP1 (English for academic purposes1) 後半 5 週
- ・ 履修登録は学内のタブレットを通じて
- ・ GE3→10 人 (日本人 6 人、ベトナム人 2 人、コロンビア人 1 人、中国人 1 人)
EAP1→10 人 (日本人 6 人、ベトナム人 2 人コロンビア人 2 人)
- ・ 9:00 ~11:00 、Tea break 、11:30 ~13:30 を週 5 日 (月～金)
- ・ 英語の授業のみ、ゼミ形式
- ・ 教科書は GE3→〔speak out Intermediate Students' Book〕
EAP1→〔Oxford EAP〕
- ・ 自習室、図書館あり

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

間違いを恐れる気持ちがだいぶなくなりました。やはり日本人は間違えたらどうしようという気持ちがあつてなかなか発言権を得ることができなかつたり、自分の意見を伝えることをあきらめてしまつたりしていたのですが、周りの生徒が積極的に間違いを恐れずチャレンジする姿勢を見て、間違いに対する考えが変わりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	タスマニア大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

学部授業
 ジェンダー論
 ラテン語
 天文学
 人工知能
 web 登録
 レクチャーは 30 人ほど、チュートリアルは 10 人ほど
 現地人：ヨーロッパ系：アジア系＝5：3：2
 基本一コマ目から最終コマまで 9:00－18:00

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

オーストラリアの文化はイギリスの影響を受けているということで実際にイギリスから留学している生徒に聞いてみたが、やはり異なることも多かった。同じアジア圏でもかなり文化、性格、考え方が異なる。文系教科だけでなく理系教科も受講したことで普通に留学するよりも多くの変わった経験ができたと感じた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	チャールズダーウィン大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

1 学期：語学コース (Navitas)

1 クラスは、約 15 人と少人数で構成されており、ほとんどの学生がアジア国籍でした。2 時間の授業を 2 コマと 1 時間の自習時間を 1 日の時間割とし、毎日同じ時間割で勉強しました。授業形式は、ゼミに似ています。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

2 学期：学部コース

語学コースから学部コースへ移るとき、テストを含むすべての課題の評価が 60%以上でなければなりません。履修方法は、NUFS と同じように留学先大学のポータルサイトで履修しました。クラス構成や時間割、授業形式は履修する授業によって異なり、僕が履修した授業の多くは、ゼミのように少人数で意見交換が活発に行われました。

III. 留学で得た学習成果

留学する前の英語力と比べると、言いたいことをよりスムーズに言えるようになったと思います。英語力は、スピーキングに限らず、エッセイを書く課題が多く出されたことにより、ライティングやリーディングのスキル向上にもつながったと思います。オーストラリアの特徴でもあるように、現地の学生だけでなく様々な国籍の留学生と接する機会が多く、文化の異なる人とのようにうまくコミュニケーションするかを考えなければならず、自分のコミュニケーション方法について見直すことができました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	チャールズダーウィン大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Navitas Academic English 3 (語学学校)

クラス人数 13 人 (日本人 1 人、中国 3 人、台湾 2 人、ネパール 3 人、その他)
一日 5 時間授業

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

2 期になり語学コースから学部への切り替えに必要なことは語学コースを必要な%以上で合格すること。その手続きは自分で行う。

2 期に取った授業—communication skill, environmental issue, cultural intelligence and capability, health, environment and wellbeing

履修登録方法—履修登録期間中に web から自分で登録する。決定する際、学科の担当の先生に確認する。

クラス構成—50 人ほどのクラスもあれば 4 人

III. 留学で得た学習成果

オンラインだけで受けている生徒もいるため、オンライン上での教材が充実している。そのため予習に何をしたらいいのか、今何を学んでいるのか、課題で何が求められているのかがはっきりしていて学習しやすかった

。また授業のレコーディングは翌日にはオンラインに載るのでテスト勉強がしやすかったり英語の学習に使えた。

IV. その他気づいたこと

高校、nufs で受けてきた授業に比べて、cdu で受けた授業は授業の進みが遅く、学ぶ範囲自体は広くないと感じた。そのおかげで一つのことに対してもっと掘り進めて考えることができた。掘り進めて考えると授業間をまたいで関連づけられる点が多くあったことが驚いた。

留学種別	TESS II
留学先大学	チャールズダーウィン大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

10 週間の語学コースを受けました。10 週間の中で前半 **ModuleA**、後半 **ModuleB** へと別れていました。

ModuleA は私を含め、クラスメートは 2 人、**ModuleB** は 6 人でした。

他のクラスメートの国籍はインドネシアと中国と台湾でした。

授業は 1 日に 2 時間授業 2 コマと 1 時間授業 1 コマ、月曜から金曜の週 5 日間の授業でした。

使用した教科書は **ModuleA** で 1 冊、**ModuleB** で 1 冊使いました。他のノートを使うというより、教科書に書き込むというのが多かったです。授業はすべて教科書に沿ってました。教科書の中にリスニング、リーディング、スピーキング、ライティングのセクションやレポートの書き方、プレゼンの仕方などすべての内容が入ってました。先生が質問してくることに生徒が答える、皆で話し合う、1 人ずつ問題を解いて、皆で答え合わせといったふうに授業は進みました。

テストは **ModuleA** と **B** の終わりにありました。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのテストでした。

ほかにも評価対象には **Research Report** やプレゼンテーション、**News Report** などがありました。

教室と、ランチルームで過ごすことがほとんどでした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

少人数のクラスだったので、発言する機会が多かったのも、日本にいた時よりは発言ができるようになったかなとはおもいます。当たり前のことですが、すべてが英語なので、リスニングは前より聞き取れるようになった気がします。

IV. その他気づいたこと

他の国の人は、自分の意見とその理由がとてもはっきりしているなと思いました。また、日本人はこうだね、といったふうに決めつけられることもあって、少し不快に感じることもあったけど、日本人はこうやって思われてるんだとか、初めて知ることもあり、面白くもありました。

留学種別	認定
留学先大学	ディーキン大学付属集中英語コース
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・語学学校 (DUELI)
- ・EAP1-3
- ・1 クラス 15-20 人 (中国、日本、ベトナム、サウジアラビア、台湾、カンボジアなど)
- ・平日の 10 : 30 - 16 : 30
- ・ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

- ・学部コースに行くために、EAP3 を合格数必要があった。リーディング、リスニングのテスト、エッセイ、プレゼンテーション、グループディスカッションのそれぞれに成績がつけられ、6 割以上で合格できる。
- ・学部コース
- ・Economic Principal、Marketing Fundamental、Business Requirement Analysis
- ・大学のサイトから登録
- ・セミナー 1 クラス 10~15 人 (オーストラリア、インド、ヨーロッパ、アメリカ、日本)
クラス 1 クラス 50~100 人 (セミナー

III. 留学で得た学習成果

- ・語学学校
授業中にスピーキングの機会がとて多かつた点がとても良かったと思います。また、正しいエッセイの書き方を学ぶことができました。文章の構成や、レファレンスのやり方、エッセイに相応しい単語など、今まで書いていた英語のエッセイに比べて、大きく変わったと思います。
- ・大学での学部授業
語学学校での授業と比べると、内容も課題もはるかに難しくなりました。私はビジネスの授業を取りましたが、英語でビジネス科目を学ぶことはもちろん、現地の学生に混ざっての授業だったので、ついていくのに必死でした。現地の学生は、自分の意見を積極的に発言する人が多く、そういった環境がすごく刺激になりました。自分もグループワークなどでしっかり意見を出したいと思い、毎回十分に予習をして授業に臨むことを心掛けました。大学での約三か月間で、ビジネスの知識を得ただけでなく、精神的にも成長したと思います。

IV. その他気づいたこと

語学学校では、昼休みの後に 1 時間の自習時間がありました。その時間では、自分の伸ばしたい分野の勉強をすることができました。例えば、リスニング教材がたくさん置いてある部屋や、英語の本や映画が自由に見れる部屋、スピーキング力向上のための **conversation room** などがありました。そこで新しい友達がたくさん作れたり、静かに勉強できたり、とても良い環境だと思いました。

その後、大学での授業が始まると、もちろん授業で他の国の生徒との関りはあったのですが、スピーキングの機会が語学学校にいた頃よりも減ってしまったように感じました。授業日数が

減ったことと、大学の授業の半分以上が講義形式だったからです。私は英語のスキルの中でスピーキングを最も苦手としていて、留学中に一番伸ばしたい部分でもあったので、授業以外の部分でスピーキングの機会を増やすことが少し大変でした。

語学学校では多くの友達ができ、スピーキングを中心に楽しく英語を学ぶことができ、大学では周りのレベルが高い環境で、刺激を受けながらビジネスを学ぶことができました。語学学校と大学を比べると、それぞれに違ったいいところがたくさんあるので、1期と2期で両方に通うことはとても良かったと思いました。

留学種別	TESS II
留学先大学	ニューカッスル大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

大学付属の語学学校（15 週間）

15 人程度、中国人、サウジアラビア人、日本人など

1 日 4 時間の授業

リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングなどをまとめた授業

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

学部に行くために、語学学校の EAP クラスのテストがありました。

Australian Popular Culture （授業 2 時間）

Japanese Culture and Identity （授業 2 時間）

Leisure behavior and organization （授業 2 時間）

Introduction to Linguistic 2 （授業 2 時間、チュートリアル 1 時間）

ニューカッスル大学の自分用のサイトから履修登録

III. 留学で得た学習成果

語学学校ではいろいろな生徒たちと触れ合え、英語力を向上することができました。また、いろいろな国の人と一緒に授業を受けることにより、いろいろな文化に触れることができました。

また学部では現地の人と一緒に授業を受けることはなかなかむづかしいことや大変なこともあったが、そのような経験のおかげで成長できたと思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ニューカッスル大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ELICOS COURSE
writing , listening, reading, speaking
15 人程度
9:00~15:00 二時間休憩あり
ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

- ・ Introduction to Management
- ・ Cross-cultural management&negotiations
- ・ Accounting Practice

各 60 人程度
講義形式

III. 留学で得た学習成果

- ・ 英語をしゃべることに躊躇しなくなった
- ・ 日本と比べて、自ら発言することが大事だと思った
- ・ インプットよりも、アウトプットが大事だと感じた (現地の人と話す、日本のことについて説明する等)
- ・ 苦手なことでもまずは続けることが大事だと感じた

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	ニューカッスル大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

1 学期は、Beginner's Chinese I , Film Media Culture, Japanese Society and the World, Psychology introduction の 4 つのコースを履修しました。インターネットで履修登録をします。時間割は、コースにつき 1, 2 コマあり 1 コマ 1 時間から 2 時間です。大抵、1 時間のレクチャーと 1 時間のワークショップなどに分かれています。私の場合は週 4 日で、1 日 2, 3 コマでした。時間割は自動的に割り振られるので、取りたいコースがかぶってしまった場合、どちらかをあきらめる必要があります。私は時間割がかぶり、Japanese society and the world をオンラインで取りました。なのでクラス構成はわかりませんが、その他のコースでは現地学生に混ざって授業を受けていました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

2 学期は、Beginner's Chinese II , Film and television studies, Communication and culture, Japanese culture and identity の 4 つのコースを履修しました。週 4 日で 1 日 2 ～4 時間でした。Beginner's Chinese は前期の続きだったので、同じメンバーで 10 人ほどの少人数クラスでした。私以外はオーストラリア人学生でした。Japanese culture は 20 人くらいで約半分が日本人、残りは韓国人と中国人

III. 留学で得た学習成果

私は 2 学期とも学部授業を受けました。すべて自力でやる必要がありましたが、わからないことがあれば、クラスの子に聞いたり調べたりしました。課題やテストについても、講義内や個別のサイトで詳しく説明されるので特に困ることはありませんでした。大抵のことは自分で解決出来ますし、この経験を通してさらに挑戦し解決する力がついたように感じます。学部授業では、留学生のためにゆっくりわかりやすく話したり特別サポートしてくれることはありません。予習のリーディングや講義中に聞きながらメモを取るなど、大変なこともありましたが、だんだん自分なりのやり方を見つけ、慣れていきました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ボンド大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名、また、授業科目名は全て **General English** で履修登録方法は先生達がしてくれました。クラス構成としては、日本人を始めブラジル人や中国人が多く、韓国人やアルゼンチン人、クエト人などが合わさり 15 人程度の少人数でした。1 週間の時間割は水曜が 1 コマ 120 分の授業が 3 時間、残りの月火木金は 1 コマ 120 分の授業が 2 時間でした。授業形成としては、1 人の長期在住しているイラン人又はオーストラリア人の先生が月曜日から金曜日まで教えてくれました。1 週間ごとに変わる文法の内容を始めに学んでから、それを実際に活用する練習として、ライティングやスピーキング、ディスカッション、リーディング、そしてパソコンを使用しパワーポイントでプレゼンをしたりもしました。日本とは異なった実践的な授業に感銘を受けました。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

中学生の時に習った内容も多く含んだ授業でしたが、日本で学んだことと異なったニュアンスを改めて学ぶことができました。日本では文字を読んで学んだのに対し、今回の留学では感覚で学んだ部分も多く、貴重な体験だったと思います。また、上記にも書きました通り日本とは異なった実践的な授業形態がとても気に入りました。日本ではリーディングをメインに勉強しがちですが、その代わりスピーキングが弱くなりがちなので、それを克服するような形で、クラスメイトと英語で会話をしたり、1 人でひたすら話し続けるなどスピーキング力がかなり上がったと思います。先生達もとても生徒の国籍関係なくとっても生徒思いだったので、学びやすい環境であったと感じました。そして、これは語学学校ならではの学びだと思います。

IV. その他気づいたこと

日本人が気持ちを口に出して伝達することが苦手ということを改めて学びました。授業内でも、ブラジル人や中国人は素直に自分の思ったことを相手に伝えていたのを見て、もっと伝えていいんだと思いました。理由としては、それによって相手との信頼関係が深まるときづいたからです。また、オーストラリア人は相手にとっても思いやりの気持ちを持って接するなと思いました。バスに乗車する時では男性が必ず女性に優先させるなどレディーファーストの文化も感じさせられました。ただ私はジェンダーレスを支持したいので、日本では性別関係なく思いやりを持って接しようと思いました。なかなかしようと思っても行動に移せていないことだったので学べて良かったです。

留学種別	TESS II
留学先大学	HU ユトレヒト応用科学大学
留学先国・地域名	オランダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Globalising Business

留学生、オランダ人半々のクラスです。グループワーク、グループアサイメントが基本です。

- Consultancy

主にケーススタディやプレゼンテーションなどを行います。週に 5 時間ほど授業時間が取られています。

- Managing Change and innovation

二人の先生が交代で **Change part** と **Innovation part** に分かれて行います。週に 5 時間ほど授業があります、授業内では先生が議題を持ちかけそれに対してグループで個々の意見を話し合い、最後に発表すると入った感じです。

- Topics in International Business

4 人ほどの先生が期間別で教えてくれます。主にアジアの企業(XioaMi)などの **Pestel** 分析やケーススタディ、グループで企業を設定し、その会社がどのように利益を出しているかなどを学びます。

- Business in society

SDGs に基づいた経営について学びます。最終的には、グループで **SDGs** を取り込こんだビジネスモデルを作り、プレゼンテーションを行います。生徒の一部の作品は、実際に団体へ送られます。

Intercultural Management

- Intercultural Management

主に **Hofstede** や **Kluckhohn** などの文化論について学びます。先生が授業で喋りある程度のところまできたらグループプレゼンテーションと入った感じです。僕の行ったプレゼンテーションは、個人主義集団主義について、映画や **Youtube** な土を用い、実際にその文化が行われている場面を紹介し、どのようにそれが働いているのかを紹介することでした。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

日本でビジネス関連の授業をあまり受けたことがないので成長した点というのはこれとってありませんが、多くの国からの留学生がいたので、様々な国の経営等に対する考え方を知ることができました。

IV. その他気づいたこと

グローバルビジネス学科の学生は、二年生の 1 期出発では行くべきでない大学です。授業はどれだけフォローアップしようとしても限界があります。またその影響かグループワーク中心の授業なのにも関わらず、グループに入れてもらえない、見つけれられないということが多いです。一部の先生方は一方的に話、グループ作ってやってくださいといった感じなので、知識の乏しかった僕には難しかったかなと思いました。

留学種別	認定
留学先大学	キャピラノ大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

・EAP070

- ・Reading & Vocabulary, Listening & Speaking, Grammar & Writing
- ・オリエンテーションにて
- ・13 人 中国、イラン、ブラジル、韓国、日本
- ・月、水 一限 Grammar & Writing 二限 Reading & Vocabulary
- 火、木 一限 Listening & Speaking
- ・講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

・EAP080

- ・Reading & Vocabulary, Listening & Speaking, Grammar & Writing
- ・オリエンテーションにて
- ・18 人 中国、イラン、メキシコ、タイ、日本
- ・月、水、木 一限 Grammar & Writing 二限 Reading & Vocabulary
- 火、金 一限 Listening & Speaking
- ・講義形式

III. 留学で得た学習成果

プレゼンテーション力、スピーキング力

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	キャピラノ大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

EAP

履修登録は紙面での登録

クラスは 13 人、イラン人がほとんどでした。

授業は月曜から木曜で、週 19 時間くらいで、生徒と教師のやり取りが多めでした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

EAP, Marketing

オンライン上での履修登録

EAP が 20 人ほど、Marketing が 40 人ほど。

EAP はイラン人と中国人がほとんど。

Marketing は現地の人と、インド人が多かったです。

EAP は月曜から木曜の週 19 時間くらいで、Marketing は週 2 回の週 3 時間ほど

EAP の授業は生徒と教師のやり取りが多めで、Marketing は基本的に講義形式でした。

III. 留学で得た学習成果

リスニングはアップしたと思います。またボキャブラリーも増えました。色々な英語の文を知り、自身の英語の幅が少し広がった気がします。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	トロント大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ Academic English
- ・ クラス人数 6 人（日本人 5 人・中国人 1 人）
- ・ 1:00pm-5:00pm
- ・ ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

リスニング力が上がった。コミュニケーションも留学前より意思疎通を図ることができた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	バンクーバーアイランド大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

English as a Second Language というコースで、英語のみを学習している。
履修登録は固定のため、選択はない。
クラスには 15 人ほどで、主に中国人。他にも台湾、韓国、タイ、シリア、サウジアラビア、バングラデシュからの生徒もいる。
授業時間は、基本 12:30-16:30 で、金曜のみ 8:30～12:30。
基本的には講義形式で授業を受け、文法、リスニング、リーディングの問題をまずはグループまたはパートナーと話し合ってから答え合わせをする。週に 2 回はディスカッションをする。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

留学前よりかは英語力は確実に上がっているが、就職活動またはその後にはまだ活用できない。かろうじて日常会話ができるぐらいしか習得できなかった。
日本人の謙虚さがアザとなったが、授業で積極的に発言するようにした。授業中に間違えてでも発言する大切さを学んだ。
よく日本人は優しいと言われるが、日本人は周囲に目がいかない。一方カナダ人は、よく周りを見て、ささいなことでも気が使える人たちばかりで、日本人も学ぶべきだと思った。また、カナダ人は Hi だけや微笑むだけでも挨拶を大事にしていた。日本人はよく他人に対抗心を持つ人が多いが、カナダ人は人の尊重を重視していた。

IV. その他気づいたこと

現地のルール、何が行儀悪いかとかに違いがあった。

留学種別	認定
留学先大学	ブロック大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ESL

Listening and Speaking

Reading and Writing

Project (grammar)

クラス 12 人 (韓国人 2 人、中国人 1 人)

講義形式で名古屋外国語大学でいう **Core English** と同じような感じ

クラス内は英語しかはなしてはいけないルールだったため、たとえ同じ国出身同士でも英語で話さなければならない。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

文法をまた一からするという内容だったので自分の苦手な分野が学べた。

テストの点数によってレベル別されるのですがテストの結果は大事だなあと感じました。

もう少し難しいレベルでもよかったかもしれないです。

クラス内は英語のみというルールによって毎日英語しか話さなくなる日も多かったので、英語で会話がスムーズにできるようになりました。

IV. その他気づいたこと

ないです。

留学種別	認定
留学先大学	ブロック大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称: Level 4 Augmented: English as a second language

授業科目名: ①Reading and Writing ②Listening and Speaking ③ Project

履修登録方法: 選択不可

クラス構成: 16 人 日本・中国

1 週間の授業時間割:

Reading and Writing 毎日 2 時間 (月～金)

Listening and Speaking 毎日 2 時間 (月～金)

Project 毎日 1 時間 (月～金)

計 25 時間/週

授業形式:

Reading and Writing

教材を中心にして進めていく。**Reading and Writing** だが教科書の内容はあまりじっくりとは学習はせず、主に教科書のトピックについてのグループディスカッション。時々教科書の内容と関連した **Ted Ed** を見ることも。

Listening and Speaking

上記に同じ。グループディスカッションを主にしている。時々プレゼンの機会がある。

Project

主に文法、発音について学ぶ。**Ted talk** を見てのグループディスカッションもある。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

この留学で一番成長した点はスピーキングだ。留学前は正しい英文法を使用することやエッセイを書くということに重点を置いていたので英会話はほとんどできなかったが、この留学で英語を日常的に使う機会が増え、英語で会話をすることにとっても苦勞するという事は無くなった。授業は講義というよりもグループディスカッションがメインで行われるものだったので、トピックに関して自分の意見を英語で相手に理解してもらえるように話す必要があった。この環境がスピーキングスキルを成長させた大きな要因だと思う。クラスメイトも英語がある程度話せる人が多かったので、彼らに遅れを取らないように必死で考え、英語で伝えようとする努力を続けた。

自分では英文法や発音に関して理解していると思っていた。しかし、実際に留学で再確認した際に表現のニュアンスを深く学び、今まで自分が学んで使っていた表現が使用する場面によっては文法的な間違いでは無いが、ネイティブの感覚としては意味が少し違ってきたりすること学んだ。

また、日常生活で買い物や食事に出かける際に使う表現を新たに学ぶことができたと思う。カナダは多文化社会なので何気なく言った言葉が時には差別的な発言になってしまうこともある。発言に気をつけ、自分の話した事に責任を持たなければならないということも考えさせられた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ブロック大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- Intensive English language Program for the Spring 2019 term.
- Reading & Writing, Listening & Speaking, Projects
- 入学初日にエントランステストにて生徒がレベル 1-5 までスコアごとに振り分けられたのち、各クラス別に事前に決められた時間割にて履修登録が完了する。
- クラス全体:20 人 内訳~中国人-9 人、日本人-6 人、韓国人-4 人、コロンビア人 1 人
- Reading & Writing 10 時間/週
- Listening & Speaking 10 時間/週
- Projects 5 時間/週
- 授業形式は担当する教師によって手法が変わっていたが、基本的には学期の初めに学校で購入できる教科書を軸に教師が授業を進めていく。
- 3 つの科目の中でも、Projects は特殊であり、授業毎に渡されるプリントをこなし、エッセイやディベートをクラスで発表することが目標の授業である。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

留学中私が得た学習成果として、まず自身のボキャブラリーに幅がでいた事があります。これにより普段の英語の会話やエッセイを書く際によりクオリティーの高い物や、自分の考えを相手に使える能力が上昇したと感じられる。

成長した点として、自身の英語により自信が持てるようになった事がある。留学してから自身に自信を持つ事がいかに大事かを実感し、その自信をバネに自身の能力をさらに伸ばせる事をまなんだ。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ブロック大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称 : Intensive English Language Program

授業科目名 : Reading&Writing、Listening&Speaking、Project

履修登録方法 : 学校側が時間割を決めるため、自分で履修登録は行っていません。

クラス構成 : はじめは、日本人 11 人、韓国人 3 人、中国人 2 人の全 16 人でしたが、途中で何人かがクラスを変更したため、最終的には 11 人でした。

一種間の時間割 : 【Reading&Writing×2 時間、Listening&Speaking×2 時間、Project (Grammar、Pronunciation、Presentation) ×1 時間】×5 日

授業形式 : 授業はすべて英語で行われ、毎時間 3~4 人のグループに分かれ、話し合いなどのグループワークも多かったです。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

- ・ 授業はすべて英語で行われ、教室内での会話も英語なので、英語によるコミュニケーション力は向上しました。
- ・ プレゼンテーションをする機会も多く、プレゼンテーションをするうえで必要な話し方などのスキルも向上できました。
- ・ 文法や発音などを英語で改めて学ぶ事で、理解をより深めることができました。

IV. その他気づいたこと

今回の留学を通して、英語を話さなければいけない状況でこそ、英語によるコミュニケーション力が向上できることに改めて気づきました。

留学種別	認定
留学先大学	レイクヘッド大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

レイクヘッド大学アカデミックイングリッシュプログラムという語学コースにて、実際の学部授業に備えたハイレベルなライティング、リーディング、スピーキング、リスニング授業に参加しました。クラスは入学時のテストや TOEFL などの語学試験の結果のもと、1～5 のレベルに分けられます。授業は毎日 5 時間、一週間行われます。夏期のプログラムは全体的に留学生の数が少なく、殆どのクラスが 5 から 10 人ほどの生徒で構成されていました。中国からの生徒が全体の大部分を占め、そのほかに韓国、エクアドル、イラン、ベトナムからの留学生が 1 人から 2 人ほど、日本人は私ひとりでした。各クラスに一人の教員がつき、すべての科目を担当します。授業は指定の教科書をもとに進められ、生徒が積極的に授業に参加できるよう様々なディスカッションやアクティビティが組み込まれていました。また毎週金曜日には過去一週間に学んだ教科書のユニットから各科目ごとにテストが行われ、これらのテストは小さな比率ではあるものの最終的な成績に影響します。このほかにも二回の 500～700 文字のエッセイ、10 分以上のプレゼンテーション、また学期末には一学期の総復習テストがあり、これらの点数は成績に大きく関係するため授業内でもしっかりと時間をかけ準備していきます。卒業時にはこれらの合計平均点数が 70%以上であることが必須です。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

二期では、前期に卒業したレベルのクラスから 1 つ上のレベルのクラスに切り替わります(1 学期に学力不足などにより卒業ができなかった場合は再度同じレベルの授業を履修)。私はレベル 4 から 5 に切り替わり、授業形式やテスト形式などの基本的な内容は前期と同様でしたが、教科書はレベルに合わせてその都度変わります。レベル 5 では、よりハイレベルな英語学習が求められ、難易度も大幅に上がります。二回のエッセイは 1 0 0 0～1 5 0 0 文字、また同じく二回のプレゼンテーションでは一人あたり 1 5～2 0 分ほどの時間がもうけられます。夏期では

III. 留学で得た学習成果

授業内で担当教員による正しいエッセイの書き方、プレゼンテーションのやり方の指導により、いくつかの厳しい指定はありましたがそれらの技術を身につけることができました。熱心な指導により、日本では 3 分でも苦手であったプレゼンテーションも今では 2 0 分近く話続けることも苦ではなくなりました。毎日の高度な授業により、各科目における自身の能力も成長したと感じています。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	ニュルティンゲン・ガイスリンゲン大学
留学先国・地域名	ドイツ
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私は主に、留学生用の社会でつかう英語のコース、ドイツの歴史や社会について学ぶものなどをとりました。とくにビジネスイングリッシュやオフィスイングリッシュなどです。また学部授業などではデジタルマーケティングをとりました。履修登録はネットを通しておこないました。クラスには留学生含め現地の学生が参加していました。留学生はヨーロッパ周辺から、また韓国から来ている生徒がほとんどでした。留学生プログラムの英語の授業は現地学生がすくなく、10～20人くらいで授業をしておりました。現地の学部授業をとっている学生は多かったのですが、実際に授業に参加しているのは小人数の留学生といった感じでしたので、多い日は10人少なくて2人が授業に参加しているということもありました。一週間の時間割は月曜日から木曜日まで授業があり、金曜日には授業の一環でもあるボランティアをしていました。基本的に一週間は埋まる形でしたが一日一授業しかないという日もあったのでよかったです。留学生プログラムの方の授業は小人数形式で発言が多めでした。一方学部授業のほうは一般的な講義形式でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

ビジネス英語やオフィス英語をとり、社会でつかえる英語力を養うことができたとおもいます。そしてドイツの社会について学ぶ授業ではボランティアをしました。そのボランティアで、ドイツの子どもとの関わり方やドイツの文化について学びました。そしてデジタルマーケティングはまったく私の専攻とは違い苦戦しましたが、マーケティングについてすこしは分かるようになりました。日本とはちがった授業形式で積極的に参加していかなければならなかったので、授業への積極生があがったとおもいます。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ミリアム大学
留学先国・地域名	フィリピン
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・観光学部、教育学部、語学コース（英語）
- ・起業やマーケティングについて、ツアーパッケージ、子供にとって学ぶのに適した環境とは、
- ・パソコン室、わからない場合はスタッフの方に聞く
- ・ゼミ形式 5 人～10 人程度（四年生の授業に関して）
- ・木曜日 3 時間 3 時～6 時（教育）、土曜日 6 時間 8 時～2 時半 11 時～30 分休憩（観光学部）
- ・四月下旬～10 月下旬まで語学コース 火曜日、水曜日、金曜日、各 2 時間 1 時～3 時

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

特になし

III. 留学で得た学習成果

問題解決能力の向上（仲介業者との金銭トラブルや病気、人間関係のトラブルなど）
 行動力
 幼児の学習に関するスキルを効率的に向上させるにはどのような学習環境を提供すればいいのか
 ビジネス用語
 飛行機の利用に慣れる

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	リヨンカトリック大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名、intensif

語学コース履修登録方法等は特に無し

クラス編成は 20 人程度からなる少人数制での授業

授業時間割は月火、木金の 9:00～13:00 または 14:00～18:00 の時間で行います。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

上に同じ

III. 留学で得た学習成果

私は寮生活をしているのですが、共同スペースでの勉強時に、フランス人の友人に聞くことで現地にいないと理解の難しいニュアンスの捉え方が少しできるようになりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	上海外国語大学
留学先国・地域名	中国
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・留学生コース
- ・中国語精読、中国語リスニング・スピーキング、中国語読み書き、ビジネス中国語
- ・13 人（日本、韓国、タイ、インドネシア、フランス、ロシア、バハマ）
- ・1 日 2 コマ×5 日間
- ・少人数クラスで発言の機会が多いです

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

スピーキング力とリスニング力が上がりました。外国人の友達や、中国人の先生やお店の店員さんは日本語が全くわからないので、日本語に頼ることが出来ない環境だったのが良かったと思います。

また、外国人の友達が多く出来たので、中国以外の国の文化や礼儀も教えてもらえました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	北京外国語大学
留学先国・地域名	中国
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

語学留学生は全員、語文学学院に所属し、レベルに合わせたクラスに振り分けられ授業を行います。

必修科目は、漢語・読写・口語の3つがあり、そのほかに選択科目を取ることも可能です。選択科目は、発音や文化、料理など幅広く開講しているので履修する生徒は多いと思います。選択科目を履修する場合は、各自のクラスで希望用紙に記名するだけで履修可能です。

1 クラス 15 人前後で、国籍はバラバラにされているようでした。英語圏から来る生徒が多いので、休み時間のクラスでは英語での会話が多いです。

授業は 1 教科 50 分を 2 回行い 1 授業として計算します。1 日に 1～2 授業を受けていました。日によっては 15 時に終わりますが、12 時には大抵のクラスが終わります。

週に換算すると、9 コマが必修科目です。

授業形式は日本とあまり変わらず、教科書を進めながら、解説を加えたり、練習問題に取り組みます。ただ、日本との違いは発言が多いことです。本文音読はもちろん、問題に答えたり、グループで討論したりします。とくに、質問がある場合はその場ですぐに発言をしないとついていけなくなるので、積極的に質問をするべきだと感じました。

それと、日本のようにノートを取るために板書をしたりしないので、基本的には自分でノートをまとめるか、教科書にメモ書きをしていました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

日本での授業では文法などをメインで学習していましたが、中国では発言の機会が多い授業ばかりなので、口語が必然的に伸びたと感じます。また、中国語に限らず、外国語を使うことに躊躇わなくなったとも思います。

授業だけでなく、休日に出かけることで中国の生活を体感したので、より一層中国への理解を得ました。それと、現地の人との会話から学ぶことが特に多く、スラングや若者言葉、値引き方法などの現地でしか学ぶことのできないことをたくさん知ることができました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	大連大学
留学先国・地域名	中国
留学期間	2019 年度 1 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私が履修していた授業は中级汉语一，报刊基础一，中国文化，中级口语一，古代汉语二，hsk 辅导，中文电脑です。月曜日が 3 コマで火曜、木曜、金曜が 2 コマ、水曜日が 4 コマでした。中国はほとんど授業が元々決まっていたので選ぶ必要がないので特に履修登録といったものはありませんでした。私のクラスは日本人、韓国人、アフリカ人がいて合計 7 人でした。授業はどのクラスも少人数なので何度も発言できる機会がありました。講義形式の授業がメインでした。日本で受ける講義形式の授業とは違い、みんな積極的に質問していました。少人数なので質問しやすいと思います。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

この留学を通して積極的に相手に自分のことを説明する力がついたと思います。現地の人から日本について聞かれることが多かったです。うまく話せないながらもとにかく相手に伝えようと努力していました。また、自分で行動する力もついたと思います。日本のように丁寧に教えてくれないので自分でなんとかしなければならなかったことがたくさんありました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	国民大学
留学先国・地域名	韓国
留学期間	2019 年度 1 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

履修登録はインターネットから行われる。登録日の 2 週間前くらいに、自分が履修したいと考えている科目を予めマークし、カートに入れておく日が設けられている。登録日の朝、登録画面が開かれるので、そこから自分がマークしておいた科目を登録する。留学生用の韓国語の授業では、特にアジア圏の人が多い。40 人程度で行われ、基本的には韓国語で授業が進んでいく。週に 2 回この授業が行われる。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

韓国語の授業中に他の国の学生の子と話すときは基本的には韓国語で会話をした。もしどうしても困ったときは英語で話すようにしていた。できる限り、自分たちが知っている韓国語でお互い理解できるようにということを心がけていた。日本人の学生の子もたくさんいたが、その子たちとばかり集まるとどうしても韓国語も英語も伸びなくなってしまうので、できる限りせめて授業中だけでも、他の国の学生の子たちと関わる機会を増やした。

IV. その他気づいたこと